

# 藤田 智 **直伝!** プランター菜園

## 基本の キホン!

恵泉女学園大学  
園芸文化研究所准教授 藤田 智

### その③ キュウリ 一みずみずしい夏野菜の代表

キュウリはヒマラヤ山麓で生まれ、シルクロードを経て中国、日本へもたらされました。3000年以上前から人の手で植えられ、8世紀の中国では早作りまで行われていたという、長い栽培の歴史を持っています。

涼しい気候を好む割には低温に弱く、少し目を離せばあっという間に実が巨大化してしまうキュウリ。目の届く庭先やベランダで、しっかり観察しながら育ててください。



シャッキリとした歯ごたえ、みずみずしい味わいが愛されているキュウリ。

キュウリの雌花。

### キュウリの原産地と伝播

キュウリの原産地は、インド北西のヒマラヤ山麓地帯だとされています。栽培の歴史は古く、西部アジアでは3000年以上前からすでにその記録があります。

中国へは、「胡瓜」の文字が示す通り西域のシルクロードから導入されており、時代は紀元前122年、漢の武帝のころだったようです。その後、中国国内へ広まり、6世紀の始めには一般に普及しています。740年ごろ、唐の玄宗皇帝の時代には、すでに火室を利用した早作りの技術が発達し、2月中旬には生産されていました。

わが国へは、10世紀以前にマクワウリより遅れて伝来し、『本草和名』（918年）に「胡瓜」の名が初めて見られます。

### キュウリの特徴

雌雄異花のつる性一年草で、生育適温は18〜28℃と冷涼な気候を好みます。ただし、霜には弱く、10〜12℃以下では生育しません。キュウリは果菜類の中でも、発芽から収穫までがおおよそ60日と短く、また開花から7日程度で収穫することになるので、適期を逃さないよう気をつけます。

なお、接ぎ木苗は「つる割れ病」対策に有効ですし、果実表面に白い粉がふいていないブルームレスキュウリが収穫できるのでおすすめです。

### 主な品種

#### ● 白イボ系品種

家庭菜園向き作りやすい品種としては、べと病やうどんこ病に強い、つばさ、草勢が強く、耐暑性に優れていて収量の多い、北進、暑さに強く果実の色つやがよい、南進、ウイルス病に強く栽培しやすい、Vロード、うどんこ病やべと病に強く薬剤散布回数が軽減できる、夏すずみ、生育初期から安定した収穫が可能な、夏ばやし、などがおすすりめです。

#### ● 四葉系品種

果実の長さが21〜22cmと短めの、シヤキット、果肉の歯切れがよく収量が多い、鈴成四葉、食味がよく漬物用に最適な、さちかぜ、などは、ぜひ作ってみたい品種です。

#### ● 地這い品種

青長系地這、霜知らず地這、などの品種が、作りやすくおすすめです。

#### ● 地方品種

相模半白節成、加賀太、などがあり、昔懐かしいあの味を自分で栽培することができます。

おすすめキュウリあれこれ

栽培方法

1 コンテナなどの準備

つる性のキュウリは草丈が2m以上に生長し、また栽培も3カ月程度続くので、コンテナは25ℓ以上の大型のものを使用します。そのほかに、コンテナの底に敷く軽石、市販の培養土、長さ2m以上の支柱竹3本、誘引用のひ

白イボ系品種



**'夏すずみ'**  
栽培がやさしく、減農薬栽培をしたい家庭菜園にも向いている。



**'つばざ'**  
耐暑性と耐病性に優れる、夏秋用の短形白イボキュウリ。

四葉系品種



**'シャキット'**  
四葉系キュウリの歯切れのよさに、みずみずしさを加えた味わい深い食味をもつ。

地這い品種



**'青長系地這'**  
暑さや病気に強く、果実は濃緑の短形白イボ。

**'加賀太'**

果長22~27cm、果径6~7cmの白イボ太キュウリ。果肉は厚いがやわらかく、食味、日もちがよい。

地方品種



※地方品種は取り扱いがないものもございますので、ご了承ください。

2 タネまきと苗の植え付け

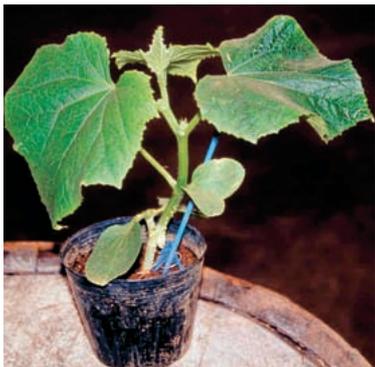
も、鉢底ネット、移植ゴテ、ハサミなどを準備します。

プランター菜園の場合、タネから育てることもできますし、苗を購入して植え付けてもよいでしょう。

①タネから育てる場合

タネは直まきもできますが、直径12cm程度のポリポットで育苗する方が無難です。まき時は、4月中旬~6月が

③苗の植え付け



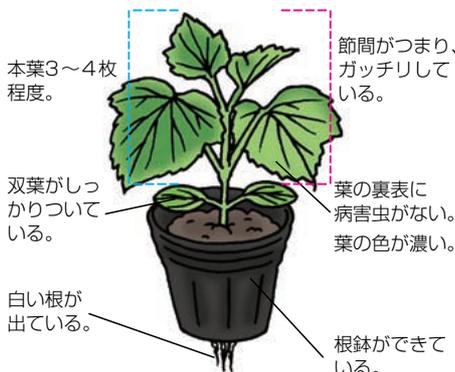
キュウリの接ぎ木苗。病害に強く作りやすい。

に鉢底ネットを敷き、底が見えなくな

よいでしょう。12cmポリポットに2粒のタネをまき、発芽して本葉が1枚展開したら1本に間引いて育てます。ポットで30日間育苗するので、週に1回500倍液肥を水やりを兼ねて施し、肥切れに注意しましょう。タネまきから30日、本葉が3~4枚程度に生長したら植え付け適期です(第1図)。

**②苗を購入する場合**  
遅霜の心配がなくなる、4月下旬~5月上旬に苗を購入します。前述の通り、キュウリの植え付け適期苗は本葉3~4枚程度の大きさです。苗を購入する時は、双葉がしっかりとついていること、節間がつまりガッチリしていること、葉色が濃く、病害虫にやられないこと、根鉢がしっかりとできていないこと、根鉢がしっかりとできていないことなどをポイントに選びましょう(第2図)。また、接ぎ木苗は高価ですが、病害などに強く育てやすいのでおすすめです。

第2図 よい苗の選び方



るくらいの軽石を入れます。次いで培養土をコンテナに入れますが、この時ウオーターベースを2cmくらいとるようにはします。コンテナの中央に植え

第1図 タネまき・育苗



穴を掘り、苗をポットから取り出して植え付けます。植え付け後はたっぷりと水やりしておきます(第3図)。



### 3 支柱立て・誘引

植え付け後、支柱を立てて苗を誘引します。立てる支柱の本数は1本、3本などありますが、今回は3本の支柱を立て、上部をひもで結ぶタイプで

行います。最近では、コンテナ用土に挿した支柱を支える器具もありますから利用するといでしょう。

支柱を立てたら、植え付けた苗を誘引します。細長いプランターに2株を植え付ける場合は、苗の後方へ格子状に支柱を立て、つるを誘引します。この後は週1回を目安に、つるを支柱へ定期的に誘引します(第4図)。

<2条植えの場合>



第4図 支柱立て

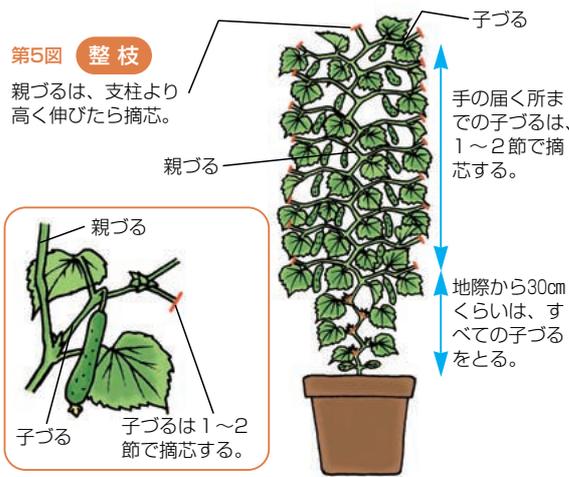
支柱を3本立て、上部をひもでしばる。

### 4 整枝

親づるの5〜6節まで(地際から30cmくらいまで)の子づるは、すべて摘みとります。その上から出る子づるは1〜2節で摘み、親づる1本仕立てとします。親づるが支柱の高さに達し

たら摘みます(第5図)。

支柱の端につるが届いたら、つるの先端を摘み取る。



第5図 整枝

親づるは、支柱より高く伸びたら摘む。

手の届く所までの子づるは、1〜2節で摘む。

地際から30cmくらいは、すべての子づるをとる。

### 5 水やり・追肥

肥切れしないように、月2回、1株当たり化成肥料10gを土の表面に追肥します。乾燥が続く高温期は、朝夕方に十分水やりを行います。

### 6 病害虫

べと病には、ビスダイセン水和剤、うどんこ病にカリグリーンを散布します。アブラムシにはオレート液剤や粘着く

### 7 収穫

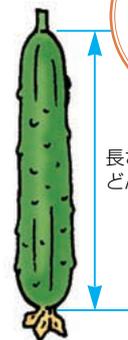
ん液剤を、ウリハムシにはマラソン乳剤などを散布します。

最初の2〜3果は、株を疲れさせないため若どりにします。それ以降は、18〜20cmくらいになったらどんどん収穫しましょう。うっかり見逃すとへちまみたいに大きくなってしまいますので、注意が必要です(第6図)。

第6図 収穫

**目標**  
1株につき  
15〜20本  
くらい!

長さ18〜20cmで  
どんどん収穫。



収穫適期のキュウリ。うっかり見逃すとどんどん大きくなり、ますぐってしまうので注意。



藤田 智  
(ふじた さとし)

秋田県生まれ。恵泉女学園大学園芸文化研究所准教授。専門は野菜園芸学、植物育種学、農業教育学。「NHK趣味の園芸」講師、雑誌「やさしい畑」連載などで野菜作りの魅力を伝える。著書に「別冊NHK趣味の園芸・わが家の片隅でおいしい野菜を作る」(NHK出版)など多数。